

4 中・高	商業
----------	----

解答時間 90分

受験番号	
------	--

氏名	
----	--

記述式 の表記がある問題は記述式解答用紙に、その他の問題はマーク式解答用紙に答えなさい。

(4枚のうち No. 1)

1 下の問いの取引の仕訳を答えなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当なものを使用すること。

当座預金	売掛金	製品	副産物
第1工程半製品	素材	所得税預り金	健康保険料預り金
売上	売上原価	貸金	特許権使用料
棚卸減耗損	製造	第1工程製造	第2工程製造
製造間接費	第1製造部門費	第2製造部門費	動力部門費
修繕部門費	賃率差異	本社	工場

問1 A工場の月末における素材の实地棚卸数量は720個であった。よって、次の素材に関する当月の資料にもとづいて素材勘定を修正した。ただし、消費単価の計算は先入先出法によっている。 **記述式**
 前月繰越高 900個 @¥680 ¥612,000 当月仕入高 3,600個 @¥780 ¥2,808,000
 当月消費数量 3,750個

問2 単純総合原価計算を採用しているB製作所では、月末に特許権使用料の月割額を計上した。ただし、1年分の特許権使用料は¥7,200,000である。 **記述式**

問3 個別原価計算を採用しているC製作所では、補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。ただし、部門費配分表に集計された補助部門費は動力部門費¥600,000 修繕部門費¥245,000であった。 **記述式**

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門
動力部門費	k W数×運転時間	20 k W×400時間	10 k W×450時間
修繕部門費	修繕回数	6回	8回

問4 D株式会社は、会計期末にあたり、賃率差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、賃率差異勘定の前月繰越残高は¥6,000（貸方）であり、当月の賃金の実際消費高は予定消費高より¥9,000多く、この差額は賃率差異勘定に振り替えられている。 **記述式**

問5 工場会計が独立しているE製作所の本社は、工場の従業員の賃金¥1,928,000について、所得税額¥179,000および健康保険料¥116,000を控除した正味支払額¥1,633,000を小切手を振り出して支払った。ただし、所得税預り金勘定および健康保険料預り金勘定は本社のみに設けている。（本社の仕訳） **記述式**

問6 工程別総合原価計算を採用しているF工業株式会社では、倉庫に保管してある第1工程完成品の一部を¥3,160,000で売り渡し、代金は掛けとした。ただし、売り上げた半製品の原価は¥2,700,000であり、売上のつど売上原価に計上する。なお、当社では第1工程の完成品原価はすべて第1工程半製品勘定に振り替えている。 **記述式**

2 次の問いに答えなさい。

問1 Webサイトやメールマガジンの中に商品販売のWebサイトにリンクした広告を掲載し、閲覧者がその広告を経由して会員登録や商品購入などの行動をとると、その広告を掲載したWebサイトやメールマガジンの主催者に報酬が入るといふ広告の手法を、次の①～④から一つ選びなさい。 **ア**

- ① バナー広告 ② リスティング広告 ③ アフィリエイト ④ 折込広告

問2 海外で企業活動をする際に、現地の文化や習慣に適切に対応する考え方を、次の①～④から一つ選びなさい。 **イ**

- ① ローカライゼーション ② コーポレートチェーン
③ ロジスティクス ④ ショールーミング

問3 市場に流通する現金通貨と日本銀行が市中銀行から預かった当座預金の合計を、次の①～④から一つ選びなさい。 **ウ**

- ① オペレーション ② マネタリー・ベース
③ スタグフレーション ④ インフラストラクチャー

4	商業
中・高	

【記述式】の表記がある問題は記述式解答用紙に、その他の問題はマーク式解答用紙に答えなさい。
(4 枚のうち No. 2)

問 4 証券会社が自己資金で有価証券を売買する業務を、次の①～④から一つ選びなさい。 **エ**
① ブローカー業務 ② ディーリング業務 ③ アンダーライティング業務 ④ セリング業務

【3】 次の資料をもとにして下の問に答えなさい。なお、資料の () 内の金額は各自で考えること。

資料
a P 社（親会社）および S 社（子会社）の当会計期間は令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日までである。
また、令和〇2年3月31日における個別財務諸表は次のとおりである。

貸借対照表				損益計算書			
P 社		令和〇2年3月31日 (単位:千円)		P 社		令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日まで (単位:千円)	
現金預金	6,000	買掛金	2,000	売上原価	14,000	売上高	20,000
売掛金	4,000	資本金	9,000	給料	5,280	受取配当金	80
商 品	1,600	利益剰余金	3,000	当期純利益	800		
子会社株式	2,400				20,080		20,080
	14,000		14,000				

貸借対照表				損益計算書			
S 社		令和〇2年3月31日 (単位:千円)		S 社		令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日まで (単位:千円)	
現金預金	3,000	買掛金	1,300	売上原価	3,500	売上高	5,000
売掛金	1,000	資本金	2,000	給料	1,300		
商 品	250	利益剰余金	950	当期純利益	200		
	4,250		4,250		5,000		5,000

株主資本等変動計算書				
令和〇1年4月1日から令和〇2年3月31日まで (単位:千円)				
	資本金		利益剰余金	
	P 社	S 社	P 社	S 社
当期首残高	9,000	2,000	3,600	850
当期変動額	剰余金の配当		△1,400	△100
	当期純利益		()	()
当期末残高	()	()	()	()

- b P 社は、令和〇1年3月31日に S 社の発行する株式の 80% を 2,400 千円で取得し支配した。取得日の S 社の資本は、資本金 2,000 千円 利益剰余金 850 千円であり、S 社の資産および負債の時価は帳簿価額に等しかった。
- c のれんは償却期間を 10 年間とし、定額法により償却する。
- d 当期中に S 社が計上した純利益は 200 千円であった。
- e 当期中に S 社が支払った配当金は 100 千円であった。
- f P 社と S 社相互間の債権・債務の取引はなかった。
- g P 社と S 社相互間で売買された資産はなかった。

問 令和〇2年3月31日（連結決算日）における次の(1)～(6)について、空欄 **ア** **イ** **ウエオ** **カ、キクケ** **コサシ** **スセソ** に入る数値を答えなさい。(単位:千円)

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| (1) 連結貸借対照表に計上する売掛金 | ア , 000 |
| (2) 連結貸借対照表に計上する資本金 | イ , 000 |
| (3) 連結貸借対照表に計上するのれん | ウエオ |
| (4) 連結貸借対照表に計上する利益剰余金 | カ、キクケ |
| (5) 連結貸借対照表に計上する非支配株主持分 | コサシ |
| (6) 連結損益計算書に計上する親会社株主に帰属する当期純利益 | スセソ |